

森林 レンジャー がゆく

(6)

石原沢での景観整備 (軍道)



石原沢沿いの光明山に向かう昔道の景観整備を行いました。軍道自治会の皆さんと一緒に作業をしました。初めは木が茂り、人の侵入を拒むような暗い道が、明るくなり、沢を流

れる水も陽光を反射してキラキラと輝きながら苔むした石の間を流れるようになりました。沢が明るくなれば、最初にホタルやトンボが戻ってきます。

今後は、沢沿いに花木を植えて、地元の人々の散策や光明山に登るハイカーの目を楽しませるような整備をしていきます。この沢は、昔は飲み水として利用されていたとの話で、簡易水道があり、現在は畑や庭木の灌水に利用されているのとことです。沢の中にこの水を貯めるコンクリート水槽が設置され、そこから各戸に給水されています。しかし、

せつかく景観を整備した沢の中にはコンクリート水槽があるのは景観を損ねます。そこで、軍道自治会の皆さんは、伐倒したスギの皮

を剥いで重ねて干し、コンクリート水槽の周りをこの杉皮で覆い、違和感の無い景観作りをするとのことでした。皮を剥いだスギ丸太の太い部位は、丸太イストとして利用され、中径丸太は道の土留めなどに利用するために道に並べられ、細い部位は高明神社で使う薪として積み上げられて、まったく無駄なく利用されています。

昔から使っている簡易水道を大切にしながら、景観を損ねないようにするなど、その場で手に入る資源を有効に活用できる技と知恵、屋根材の杉皮をコンクリート水槽の装いに使う頭の柔軟さと資源を無駄にしない気づかい、まさに「恵みの森」があつたと感じました。